

【ケースレポート例示】

【症例】

84 歳 女性

アルツハイマー型認知症

【初診時主訴】

夜間徘徊、大声（整形外科医師の弁）

【家族歴】

同胞 5 名第 3 子長女として出生。19 歳時結婚し、1 児を出産する。83 歳時夫が他界し、以降長女夫婦と同居していた。精神疾患に関する遺伝的負因はない。

【既往歴】

X-9 年に両眼白内障手術。X 年左人工股関節置換術。

【生育・生活歴】

尋常小学校を経て、裁縫学校を卒業し、自宅で裁縫業をして稼働していた。40 歳より 82 歳まで、華道（小原流）師範として教授していた。

【病前性格】

内向的、心配性

【現病歴】

X-2 年頃より、夫が入退院を繰り返すようになってから、同じことを繰り返し話したり、物をなくすことが多くなった。X-1 年頃より、自責的になり「なんで自分は不幸な人間だ」と落ち込み表情が暗くなった。また、家事は一切おこなわず、自宅に閉じこもり雑誌などを読んでいることが多くなった。その後、介護保険を申請し、要介護度 1 の認定を受け、週 2 回老人デイケア、月 10 日間ショートステイを利用することで、一時表情も明るくなりプログラムにも意欲的に参加するようになった。X 年 8 月に左人工股関節置換術のため、A 総合病院整形外科へ入院となった。術後、日中傾眠状態だが、夜間になるとルート類の自己抜去およびベッドからの転落、大声、徘徊などせん妄状態が続き、一般病院での治療が困難なため、同年 9 月に当院を受診した。

【初診時所見、診断とその根拠、治療方針】

初診時所見；落ち着いた応対で、疎通性は比較的良好である。質問に対して、言葉数が少なく的確な返答はできず、日時や場所を間違えたり、朝食の内容を忘れたりした。改訂長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)は 17 点、Mini-Mental State Examination(MMSE)は 18 点、頭部 CT で頭頂葉および側頭葉、海馬優位のびまん性大脳萎縮が認められた。その他、血液生化学的検査、神経学的検査には特記すべき所見はなかった。

診断とその根拠：見当識障害と近時記憶障害などの中核症状、抑うつ気分、意欲低下、夜間せん妄などの周辺症状、HDS-R および MMSE の軽度低下、画像所見により、アルツハイマー型認知症と診断した。

治療方針：本人は認知障害に伴う理解判断力の低下を認めた。入院治療に対する同意がえられないため、長女夫婦へ病名を告知し、同意の上医療保護入院とした。夜間せん妄が著しく、徘徊、大声などの異常行動が認められるため、認知症病棟へ入院させ、非定型抗精神病薬であるクエチアピンを投与することとした（インフォームドコンセントのうえ、同意を得た）。今後の認知障害の進行には、ドネペジルの投与と回想法および精神科作業療法をおこなうこととした。

【治療経過】

入院当初は、夜間徘徊および大声などのせん妄状態が著しかったが、クエチアピン(25mg)の投与により、2週間頃よりせん妄が軽快し、夜間5時間程度眠れるようになり異常行動も軽減した。その後、次第に一日を通して疎通性も良好となるため、4週間頃よりドネペジル(5 mg)の投与と回想法および精神科作業療法をおこなった。以降、特に大きな異常行動も認められず、病棟生活にも慣れ看護および介護職員に対しても笑顔で応対するようになった。家族面談では、長女夫婦が共働きであり自宅での受け入れが困難とのことで、今後認知症グループホーム入所を目標とした。本人には、理解力が低下しているが、病名告知と家族の事情に伴う認知症グループホームへの入所について説明し、十分とは言えないが納得したようだった。約1年10ヶ月の入院期間で、退院時のHDS-Rは15点だった。認知症グループホーム入所後も、せん妄などは認められず、穏やかに生活し、楽しんで年間行事に参加している。

【考察】

認知症に伴う夜間せん妄に対する抗精神病薬の投与は、転倒、転落による骨折や嚥下障害に伴う誤嚥性肺炎の危険性が高く、個々に応じて慎重に薬剤と投与量を選択する必要がある。せん妄状態が軽快したのは、クエチアピンの投与、専門病棟というなじみの関係が作りやすい環境、看護および介護職員による心理的ケア、作業療法士による日中生活機能訓練など複合的な要素によるものと思われる。また、HDS-Rが、入院時17点で退院時15点と軽度低下だったのは、ドネペジルの進行遅延効果と回想法、精神科作業療法によるものではないかと思われる。今後も家族の受け入れが困難なため、認知症グループホームでの継続入所になると思われるが、家族の支援が可能であれば、訪問看護、訪問介護、老人デイケア、ショートステイなどの介護保険サービスを利用することで在宅療養が可能なケースと思われる。(1922字)

【教育・研究実績例示】

ご所属先

氏名

研究分野	研究内容のキーワード

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1)教育方法の実践例		
2)作成した教科書・教材		
3)実務経験を有する者についての特記事項		
4)その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1)資格・免許		
2)実務経験を有する者についての特記事項		
3)その他		

研究業績等に関する事項

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所・発表雑誌等又は学会発表等の名称	概要
(著書) 1.				
(学術論文) 1.				
(その他) 1.				

【行政実績報告例示】

ご所属先

氏名

関連のある事業や事業分野があればご記載ください	
実務履歴 (活動期間、具体的実務内容等)	
行政実績	
添付資料等 (なければ必要ございません)	
その他	